

むつ市議選 皆様のご支援に感謝します、杉浦候補、見事再選を果たしました

10月1日に投票されたむつ市議選は、杉浦弘樹候補は第7位で堂々当選致しました。皆様のご支援にあらためて感謝申し上げます。

今回の市議選には26名（定数22名）が立候補し少数激戦で、しかも4月の補選で無投票当選した2名が含まれており、その実力が測り知れないことやポスターや選挙カーなどを一切使わずSNS戦術に特化した候補者などがあり、先の読めない展開が続きました。投票率は53.2%で、過去最低だった前回は4.12ポイント下回りました。

結果としては前回より順位を1つ上げて上位当選となりました。しかし、陣営としては連合推薦候補が1名だったことを考慮すれば、激戦といえども約200票ほど前回獲得票を減らしていることなど厳しい総括も必要となります。また共産党も2議席確保したものの前回票を560票減らすなど、野党系にとってはいずれも厳しい結果となりました。

また新人議員1名の政治姿勢が注目されます。



【今回選挙結果の特徴】

投票率、有効投票数、議員構成

- ・今回は前回に比較して有権者数は45,916名（前回：48,588名）で2,672名減少。
- ・投票率は53.2%で前回比4.12ポイント減少、その結果、有効投票数は24,082票（前回：27,503票）で3,421票14.2%の減少。
- ・旧自治体区分は旧むつ15名、旧大畑3名、旧川内2名、旧脇野沢2名と前回と変わらず。
- ・新議員年齢構成は80歳代2名、70歳代8名、60歳代2名、50歳代6名、40歳代2名、30歳代2名と60歳以上が過半数を占める。

各陣営の得票状況

- ・多くの候補が前回票を減少させ、増加した候補は5名にとどまる分析の難しい形となった。
- ・トップ当選の井田氏は引退した山本氏の地盤引継ぎが奏功。
- ・共産候補は現有議席を確保も前回比2名合計で559票の減少。
- ・公明票も新旧交代があったが現有議席を確保、しかし2名合計で584票の減少。
- ・前回1,000票以上を獲得した不出馬の元議員票がいずれへ分散したのか、SNSに特化した選挙戦で勝利した候補などの分析は今後必要となる。

【むつ市議選今回得票と前回得票との比較】

当落	候補名	政党	今回得票	前回得票	増減
当選	井田 茂樹	無	1,828	***	***
当選	浅利竹二郎	自民	1,606	1,899	-293
当選	富岡 直哉	無	1,594	1,283	311
当選	大瀧 次男	無	1,526	1,650	-124
当選	村中 浩明	無	1,272	1,506	-234
当選	濱田 栄子	無	1,124	1,118	6
当選	杉浦 弘樹	立憲	1,049	1,258	-209
当選	住吉 年広	公明	1,043	1,331	-288
当選	富岡 幸夫	自民	1,038	882	156
当選	佐賀 英生	無	1,011	860	151
当選	白井 二郎	無	964	1,380	-416
当選	野中 貴健	無	917	839	78
当選	工藤 祥子	共産	865	1,033	-168
当選	高橋 征志	無	853	***	***
当選	桜田 秀夫	公明	852	***	***
当選	岡崎 健吾	無	815	854	-39
当選	佐々木隆徳	無	803	930	-127
当選	中村 正志	無	798	***	***
当選	佐々木 肇	無	796	881	-85
当選	東 健而	無	690	952	-262
当選	佐藤 広政	無	611	1,077	-466
当選	佐藤 武	共産	595	986	-391
落選	山田 伸	無	524	***	***
落選	新谷 泰造	無	428	513	-85
落選	後藤 隆行	無	328	***	***
落選	川村 和彦	無	152	***	***
今回立候補なし	山本 留義	無	***	1,485	***
	鎌田ちよ子	公明	***	1,148	***
	斉藤 孝昭	無	***	1,140	***
	原田 敏匡	無	***	1,000	***
	半田 義秋	無	***	786	***
	野呂 泰喜	無	***	712	***
合 計			24,082	27,503	

むつ中間貯蔵施設、本当に動き出すのか！ 搬出先がないままの搬入は永久貯蔵につながります

使用済み燃料は全量再処理する方針になっていますが、この間のプルサーマル計画や高速増殖炉開発計画の頓挫でプルトニウムの余剰は明らかです。仮に六ヶ所再処理工場が運転開始したとしても、本格操業できる見込みは推進派の人たちにもありません。今後、再稼働が進めば使用済み燃料の発生量は、六ヶ所再処理工場のフル操業の能力よりも多いため、第2再処理工場というあり得ないものが動かない限り、中間貯蔵したものを搬出することはできません。まさに貯蔵施設は「中間」ではなく、実質的に再処理路線が不能となり「永久貯蔵」施設にならざるを得ません。

むつ中間貯蔵施設のキャスク貯蔵方式は、金属のキャスク（容器）に入れて貯蔵する方式です。金属容器方式の場合、輸送容器と兼用ですから、運んできてそのまま貯蔵することになり、受け入れの際の手間が簡単であること、除熱は空気の自然循環方式で停電等の心配も要らず、メンテナンスが簡易であることが利点と考えられま

す。しかし、この方式はまだ殆んど実績がありません。

国内での実績は、事故を起こした福島第一原発構内の70tU分の施設と、東海第二原発の260tUの施設（2001年から利用）の2施設だけです。短期間の実績しかないため、強い放射線と熱にさらされつづけるキャスクがどの程度持つのが問題です。キャスクの耐用年数は約60年とされていますが、本当にこの期間大丈夫でしょうか。

また、「中間貯蔵」といっても第二再処理工場が稼働して「中間貯蔵」施設から搬出できることなどありえないので、40～60年後にはキャスクの破損や寿命による詰め替えが必要になると考えられます。ところが、手法などは結論が出ておらず詰め替えのための設備はどこにも用意されていません。詰め替えようとして、キャスクの2重になっている蓋を開けようとすると、中からの放射性ガスの漏出など危険がいっぱいだからです。

こうした状況下で本当にむつ市は搬入を受け入れるのでしょうか。

リサイクル燃料貯蔵（RFS社）が保安規定認可取得をむつ市へ報告

8月30日にRFS社はむつ市を訪れて保安規定認可の報告をしました。

その中では右のようなやり取りが行われました。

すでにマスコミで報じられている通り、具体的な内容は殆どなく、親会社の支持待ち状態です。

むつ市はこうしたやり取りを踏まえ、以下の考え方をしました。

（9/8 むつ市議会中間貯蔵問題特別委員会資料より）

<質問内容まとめ>

- ・現時点での事業開始時期の見通しについて、「2023年度下期から2024年度上期を念頭に準備する」との発言があったが、これまで暫定的に「2023年度」とされていたことから**後退しているものと受けとめている**。
- ・さらに、**将来の2棟目建設やいわゆる共用化問題といった今後の事業のあり方に様々な懸念を抱えた事業**でもあり、今後、5,000トンの貯蔵について**どのようにして道筋を示していくか**ということにも市民の皆様の関心が高まっている。
- ・以上、**現時点での事業開始時期の見通し、及び、今後の事業のあり方についての懸念や道筋の示し方、この2点について御社の考え方を伺いたい**。



山本市長



高橋
RFS社長

<回答内容まとめ>

- ・柏崎刈羽原子力発電所における特定核燃料物質の移動禁止の措置の解除時期について当社では見通せない中で、今後事業開始に向けた準備を進めるにあたって、**これまで暫定で「2023年度」とお示ししていたものを当社として明確化させていただいて「2023年度下期から2024年度上期」という幅の中を目指して取り組んでいく**ということをご説明させていただいた。
- ・まずは安全対策工事について、今年度中の完了を目標に取り組み、**移動禁止の措置が解除され環境が整った以降、東京電力HDと日本原子力発電との協議を進め、速やかに当面の搬入計画を示し、その後のステップも進めることで、早期の事業開始に努めたい**と考えている。
- ・また、**2棟目の建設を含む5,000トンの貯蔵についてどのようにして道筋を示していくのかについても、立地をお願いした当初と原子力を取り巻く情勢の変化もあることから、今後、東京電力HD並びに日本原子力発電と協議を進め、適切な時期に示したい**。
- ・**共用化については、私が社長になってから一切聞いておらず、現時点でもその認識には変わりはない**。

こうしたことを踏まえた
むつ市の対応内容は？

◎RFS社に求めていること（再掲）

- ・環境が整い次第、速やかに事業開始時期の見通しを示すとともに、1日も早い事業開始を見据えて、必要な手続き、検査対応等の準備を着実に進めること。
- ・事業計画の策定に主体的に取り組み、第2施設の2,000トンを含めた50年間で5,000トン貯蔵する計画の具体的な見通し、スケジュールを適切な時期に明示すること。
- ・事業開始に向けた次のプロセスである安全協定締結について、市及び県と連携して、準備を進めるとともに、市民の皆様説明する機会を設けていくこと。

◎市における今後の取組について

- ・安全協定締結に向けて、RFS社及び県と連携して準備を進めていく。
- ・オフサイトセンターを含む防災拠点や避難道路の整備等、防災安全対策の強化について、国及び県に求めていく。

「核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会」など 県内 13 団体が共同で福島の「汚染水海洋放出に対する抗議文」を発出しました

福島第 1 原発の汚染水の海洋放出で、東京電力は 9 月 5 日、2 回目の放出を始めました。こうした海洋放出は少なくとも今後 30 年間は続くと言われています。

こうした状況下、9 月 11 日、上記の「核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会」など県内の 13 団体は連名で抗議文を内閣総理大臣、経済産業大臣、環境大臣、原子力規制委員会、東京電力ホールディングスへ発出しました。また、同日は「核のゴミから未来を守る青森県民の会」の佐原若子共同代表らが記者会見を行い、汚染水海洋放出に対する抗議表明を行いました。

9/12 デーリー東北→

処理水放出中止要請
政府などに文書郵送
青森県内反核燃 13 団体
東京電力福島第 1 原発の処理水の海洋放出に反対する青森県内の反核燃 13 団体は 11 日、放出の即時中止を求める要求書を政府や東電に郵送で提出した。使用済み核燃料再処理工場（六ヶ所村）についても「本格稼働による放射性廃液の放流に強く反対する」とした。岸田文雄首相らに宛てた文書では、海洋放出を「緊急性、合理性がなく、一時的の責任回避」などと非難。同日、提出団体を代表して「核のゴミから未来を守る青森県民の会」の佐原若子共同代表が県庁で会見し、「今からでも他の方法を研究することはでき



る」と指摘した。提出に加わった核燃サイクル阻止 1 万人訴訟原告団の山田清彦事務局長も会見に同席。再処理工場について「（処理水放出は）福島だけの問題ではない。セクトで考えて抗議したい」と述べた。（藤野武）
記者会見する佐原若子共同代表（左）と山田清彦事務局長（右）、青森県庁

リサイクル燃料貯蔵株、関西系原発（加圧水型原子炉）のキャスク受入れ可能へ事業変更申請 関西電力の使用済み核燃料受入れの布石か…リサイクル燃料貯蔵株は否定

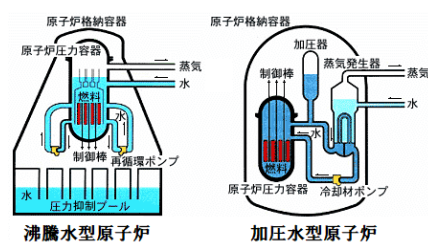
同社は受入可能なキャスク（使用済み核燃料格納金属容器）を主に関東以北で使われている沸騰水型原発のキャスクに限定した事業許可でしたが、9 月 21 日に関西系原発の加圧水型原発用キャスクの搬入についても事業許可申請をしました。確かに同社の親会社の一つである日本原子力発電の福井県敦賀原発 2 号機は加圧水型原発ですが現在運転停止中で貯蔵率も 63% 程度で決してひっ迫している状態ではありません。

もし、最初からこちらの使用済み燃料収納を予定しているのであれば当初から事業許可を得るのが当然と思われます。ここにきて急遽、許可申請をした背景に本当に

今いちばん、中間貯蔵施設を渴望している関西電力の原発からの搬入を念頭に置いたものではないかと疑惑がもたれます。もちろん、同社はこのことは全面否定していますが、東京電力の柏崎刈羽原発からの搬入がスケジュール化できない状況と相俟って大いに気になります。

ちなみに関西電力の原発はすべて加圧水型原発です。

一方の東京電力の原発はすべて沸騰水型原発です。



核燃サイクル絶対反対！再処理やめろ！空に海に放射能を流すな！子どもたちを放射能から守れ！

反核燃 秋の共同行動★むつ行動

- 六ヶ所再処理工場本格操業反対！
- 東通原発東京電力 1 号機建設反対！
- 大間原発絶対反対！

- むつ使用済み核燃料中間貯蔵施設反対！
- 東通原発東北電力 1 号機再稼働反対！
- フクシマを忘れない！

11月11日（土）午後2時 下北文化会館 大集会室

・中間貯蔵問題現状報告 ・ビデオ学習会 ・反原発生産者産直市場

《集会呼びかけ人》

- ・野坂 庸子（核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会代表）
- ・中嶋 寿樹（原発核燃をなくす下北の会）
- ・浅石 紘爾（核燃サイクル阻止 1 万人訴訟原告団代表）
- ・今村 修（原水禁青森県民会議代表）
- ・大竹 進（なくそう原発・核燃、青森ネットワーク共同代表）
- ・菊川 慶子（花とハーブの里・六ヶ所村）
- ・古村 一雄（核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会代表）
- ・種市 信雄（六ヶ所・核燃から漁場を守る会）
- ・鳴海 kakunenn 清彦（反核燃りんこ農家）

《むつ行動実行委員長》中嶋 寿樹

むつ市議会へ「学校給食無償化」の声を届けましょう

全国 1,942 自治体のうち 493 自治体で完全無償化が実施されています

「むつ市の給食無償化をめざす会」（向井宏二会長）では学校給食は児童生徒の健全な発達に大きく貢献するとして、市独自で地方創生推進交付金の活用や財政調整基金の活用などで完全無償化するよう求めています。

この課題は昨年6月のむつ市議会で「学校給食の無償化」に関する請願として国への意見書採択を求めたものの杉浦議員および工藤、佐藤（共産）議員以外の反対で否決されています（浜田議員は欠席）。

同会は12月議会提出をめざして署名活動などの行動を強めています。皆様のご支援ご協力をお願いします。

2億3千万円余りの予算で実現が見込まれます

2019年度の給食費1食当たりの保護者負担は平均すると1食328円です。むつ市の場合、総額で約2億3千万円となります。これはむつ市の年間予算約405億円の0.6%未満であり、十分可能な金額です。

学校への納入金で最も大きいのが給食費です

現在の給食費（年額）は小学校で平均61,902円、中学校で66,850円です。これは学校への納入金全体の学年や給食日数による違いもありますが50～75%を占め、家計への大きな負担となっています。



★ むつ市内の方へは署名用紙と返信用封筒を同封しました。署名は5名分、書かれていなくても大丈夫ですので、ぜひご協力をお願いします。（封筒は切手不要です）

全国の政令市・特別区(東京都)・区市町村
1,942自治体のうち493自治体で完全無償化実施!!
(2023年9月26日現在)
実施率約25.4% 青森県は40%

むつ市の子どもの取り組みは注目されています、 ぜひ、その立場で給食費問題もしていただきたいものです 9/10のデリーー東北「私見創見」欄に掲載された論文です

むつ市の子どもの取り組みに注目

オンブズパーソン

むつ市で本年度中に「子どもオンブズパーソン」の設置を検討している。青森県では初の事例である。私は博士論文をオンブズマン制度で書いたもので、まさか身近で設置の事例を見ることのできるほど、かなり感動している。というのも、日本においてオンブズマン（パーソン）制度は決して一般的なものではないから

とろで、市民活動に詳しい方は「市民オンブズ」を「存在」であろう。しかし、むつ市で導入しようとしているオンブズパーソン制度とはまったく別物である。市民オンブズは、議員や行政職員に対して情報公開請求や監査請求によって不正な文書管理や公金使用を正す「市民の活動」である。一方、むつ市で導入を試みているオンブズパーソン制度は、行政機関に設置される公的なものであり、市民活動とは異なる。また、市民オンブズは公的な方に比べてかなり普及しており、またマスメディアへの露出も高いため「オンブズ」の言葉が出ると、先にイメー

最近の世界的な傾向をみると、オンブズマンがパシツと解決策を提示したり、「悪者」の責任を追及するというより、申立人や関係行政機関、その他の人や団体とをつなぐたりして、皆で納得できる解決策を一緒に考える傾向があるようだ。さて、そもそも論が長くなってしまったが、これもオンブズパーソンは、それをこのものの視点でやろうというものである。日本の先進事例としては、川崎市や兵庫県川西市が有名である。これもまたつまらない問題は単に本人だけで解決できるものではない。学校や家

むつ市で本年度中に「子どもオンブズパーソン」の設置を検討している。青森県では初の事例である。私は博士論文をオンブズマン制度で書いたもので、まさか身近で設置の事例を見ることのできるほど、かなり感動している。というのも、日本においてオンブズマン（パーソン）制度は決して一般的なものではないから

とろで、市民活動に詳しい方は「市民オンブズ」を「存在」であろう。しかし、むつ市で導入しようとしているオンブズパーソン制度とはまったく別物である。市民オンブズは、議員や行政職員に対して情報公開請求や監査請求によって不正な文書管理や公金使用を正す「市民の活動」である。一方、むつ市で導入を試みているオンブズパーソン制度は、行政機関に設置される公的なものであり、市民活動とは異なる。また、市民オンブズは公的な方に比べてかなり普及しており、またマスメディアへの露出も高いため「オンブズ」の言葉が出ると、先にイメー

最近の世界的な傾向をみると、オンブズマンがパシツと解決策を提示したり、「悪者」の責任を追及するというより、申立人や関係行政機関、その他の人や団体とをつなぐたりして、皆で納得できる解決策を一緒に考える傾向があるようだ。さて、そもそも論が長くなってしまったが、これもオンブズパーソンは、それをこのものの視点でやろうというものである。日本の先進事例としては、川崎市や兵庫県川西市が有名である。これもまたつまらない問題は単に本人だけで解決できるものではない。学校や家

山谷 清秀

青森中央学院大経営法学部講師



やまや・きよひで 1989年、青森市生まれ。同志社大大学院総合政策科学研究科博士課程（後期課程）修了。浜松学院大専任講師を経て、2020年より現職。専門は行政学、地方自治論。行政の苦情対応、特に近年はカスタマーハラスメントをテーマにする。近著共著に「地域を支えるエッセンシャル・ワーク」。

あらゆる下北の航路、存続に黄信号、大函フェリーも厳しい状況です

吉田ゆかり県議も県の支援策を質しました

津軽海峡フェリー―指定管理期間終了まで半年

運航経費支援避けられず

町、存続へ枠組み模索

9/24 東奥日報

大間―函館

大間町と津軽海峡フェリー（本社・北海道函館市）が結んだ大間―函館航路の11年間の指定管理期間が2024年3月末で終了する。同航路は慢性的な赤字が続いており、24年度以降の航路維持に向けて、町は運航経費の支援は避けられないと考えている。経費負担には県や下北4市村にも参加してもらう枠組みを模索しており、関係機関による水面下での調整が進んでいる。

（川越真也）

また、新型コロナウイルスの21年は同3万9020人と約4割まで落ち込んだ。17年以降は毎年1億円超の経常損失が続き、20年以降は2億3億円台に拡大している。

指定管理期間終了まで約半年となり、財政支援の枠組みを固めるタイムリミットが迫る。関係者の話を総合すると、財政支援額は年1億円を超える見込み。24年度以降の指定管理期間は、フェリーの更新時期に合わせ28年度末までの5年間にわたるとみられる。下北4市村は基本的に負担を認め、町側は

24年3月末で指定管理期間が終了する大函丸。大間町などが航路維持に向けた調整を進めている。8月下旬、大間町のフェリー埠頭（ふと頭）



大間―函館航路 2013年4月に就航した「大函丸」が、大間―函館間を約90分で結ぶ。現在は1日2往復運航。大函丸は大間町が建造、津軽海峡フェリー（北海道函館市）が指定管理者として運航を担っている。建造費約26億円の内訳は、町の起債約15億4千万円、県補助金5億円、鉄道・運輸機構の拠出金5億円など。22年の有料旅客人員は6万4220人。



る。東日本大震災に伴う大間原発の建設工事中断の長期化、コロナ禍、物価高騰などが同航路の運営に影響を与えている。

町によると、同航路のフェリー「大函丸」が就航した13年4月当時、県、町、同社は3者協議で「23年度末までの11年間は自治体の支援を受けずに事業者が運航する」旨で合意。このため町は現在も財政支援はしておらず、赤字は同社が負担形になっている。

町企画経営課の熊谷直喜課長は、運航開始当初から同社側と意見交換を重ね、「指定管理期間終了後は、自治体側が支援を行う」という共通認識を持ってきた」と話す。

大間町に住む70代女性は、通院のため、月に数回フェリーを利用していているという。「自分で運転せずに済むし、むつ市まで行くのとは変わらないう時間で行ける」と利便性を評価する。

野崎尚文町長は大函丸の役割について「町民の生活航路としてだけでなく（函館との）観光交流の窓口でもある」と航路恒久化の必要性を強調。「万一の災害時は防災航路としての利用にもつなげたい」とも述べ、財政支援に前向きな姿勢を示している。

大間―函館航路維持へ 県「必要な協力する」

県議会一般質問

県議会は28日、一般質問を行った。大間町が運航の維持へ財政支援を模索する大間―函館航路を巡り、県は「町の取り組みに必要な協力を」（奈良浩明企画政策部長）との姿勢を示した。

吉田ゆかり議員（無所属）の質問に答えた。大間町と津軽海峡フェリー（本社・北海道函館市）が結んだ11年間の指定管理期間は2024年3月末で終了。大間町は航路維持に向け、県などを求めた経費負担の枠組みを念頭に置く。

県は「下北地域全体の振興に重要な航路」（奈良部長）だとして、町から協議の状況について報告を受けていると説明。生活航路の機能確保や災害時の物資輸送、広域的な避難手段などの役割を担えるよう、航路の維持を図る町に対し必要な協力をすると答えた。

同航路を巡っては、県は過去に大函丸の建造費の一

部として総額5億円を拠出するなど、運航を支援してきた。県交通政策課は「これまでの経緯を踏まえ、県としてどんな協力ができるかを考えていく」とした。

現在、町が県に対して要望する日程を調整中という。

一般質問はこのほか、井本貴之（自民）、夏堀嘉一郎（新政未来）、工藤貴弘（自民）の3議員が登壇した。（佐々木大輔）

9/24 東奥日報

万博、カシノ建設が日本の本場に

必要な事業遂行を阻害していません

9/22 トーリー東北

新病棟建設工事入札不調

総合病院

一部事務組合下北医療センター「管理者の山本知也むつ市長は21日、2023年度中に着工予定のむつ総合病院の新病棟建設工事について、期限までに入札参加資格確認申請書を提出した事業者がなく、入札が不調になったと明らかにした。

理由は不明で、病院側は業者への聞き取り調査をした上で再入札を行う方針。市役所で開かれた同センター「協議会定例会で報告した。工事費2.4億円のうち、今回は事業の本体に当たる23・26年度の1期工事。東北地方に事業所を置く建設業者が対象の総合評価方式による制限付き一般競争入札として公示。しかし、13日の期限までに申請した業者がなく、病院側は入札手続きを中止した。

担当者によると、近年は労働力不足や資材高騰などを背景に、全国的に入札が不調に終わるケースが相次いでいる。

新病棟建設を巡っては、供用開始が当初予定の26年度中から27年4月と変更。事業費も19.6億円（うち工事費15.4億円）から26.9億円と増額した経緯がある。

再入札の時期は未定で、担当者は「聞き取り調査次第と説明。長引いた場合、今後の工期に影響する可能性もある」という。

無医村の佐井で診療

大竹医師「地域に恩返し」



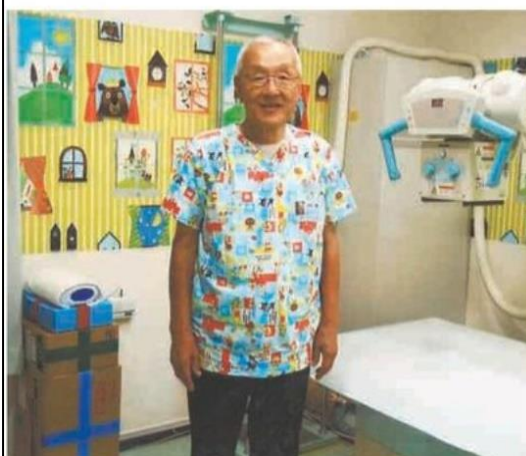
佐井村には「さいクリニック」という、整形外科の診療所がある。2008年から無医村状態だった村に、19年にオープンした。診療日は月に2日だけで、多い日は1日に50人くらいの人が訪れる。

佐井村・佐井小6年 福田 寿具里 記者



このクリニックを建てたのは、青森市浪岡で整形外科をやっている大竹進医師(72)だ。浪岡の休診日に月1回、スタッフを連れて1泊2日で行く。

大竹医師は、地域医療に貢献した医師を表彰する「赤ひげ功労賞」を受けている。大竹医師は、地味な診療に貢献した医師を表彰する「赤ひげ功労賞」を受けている。東日本大震災がきっかけだった。大竹医師の話によると、震災が起き、2万人以上が住んでいた岩手県陸前高田市の開業医が津波で死亡した。大竹医師は「自分は地域の人や患者に助けてもらい、医者になった。だから、陸前高田市へ行き、恩返しをしようと思った」。しかし、すでに他の医師が助けに入っていた。「そこで見つけたのが(無医村を出している)状態の佐井村だった」と話してくれた。



診療時にいつも着ているアンパンマン柄のシャツで、レントゲン室に立つ大竹医師

大竹医師は子どもの夢に憧れていた頃、筋力が衰えてしまつ筋ジストロフィーにある国立岩木病院(現・国立青森病院)に勤務「外国へ行きたい」と言つた。当時、人工呼吸器をつけている人は、医師と一緒に飛行機に乗ることができなかった。だから、大竹医師はこの子どもの夢を叶えるため、一緒に飛行機に乗った。大竹医師は「これまで佐井村の人は、受診するために、車で別の市に出かけたり、フェリーで函館まで行ったりしなければならなかった。私がここに来ることで、地域の方の負担が減るのではないかなと思う。自分のしていることは、交通整理のようなもの」と笑顔で語った。

《函館市議会》

福島原発汚染水海洋投棄反対意見書可決

函館市議会は9月19日の本会議で、福島第1原発事故のアルプス処理水の海洋放出を直ちに中止するよう求める意見書を自民系会派と公明党は反対しましたが立憲や共産などが賛成し14対12で可決しました。

同意見書は政府と東京電力の対応について、「漁業者と交わした『関係者の理解なしにいかなる処分も行わない』との約束を反古にした」と批判。「海洋放出を強行し、地元漁業の復興を阻害することは断じて許されない」としています。本県とは大違いです。

【トピックス】 「失われた30年」とは

新しい言葉ではありませんが、あまりの経済格差と極端な物価高にこの言葉が今、注目を浴びています。

「失われた30年」とは、ある国あるいは地域における約30年間の経済低迷の通称を指す言葉です。

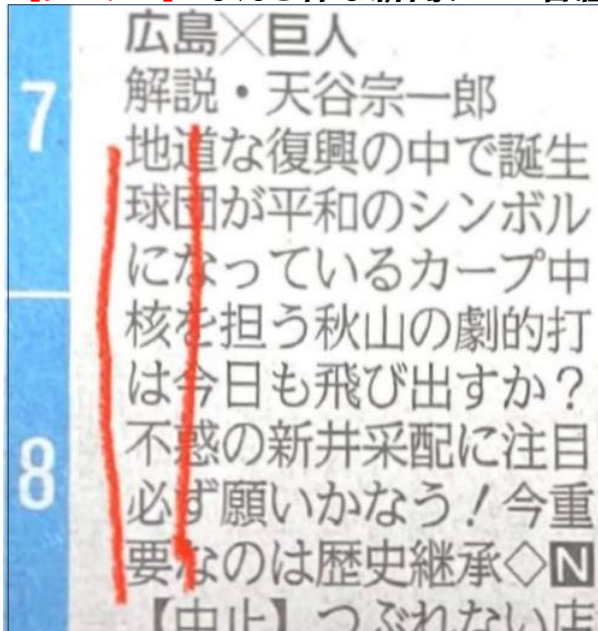
実質経済成長率が長期にわたり低迷、名目国内総生産(GDP)は30年間で日本1.5倍増にとどまり、これに対し米国3.5倍増、中国37倍増、ドイツ2.3倍増となっています。下の表をご覧ください。

日本の30年

	30年前	今
所得の中央値	550万円 (1994年)	372万円 (2019年)
社会保険料 (1ヵ月)	35,820円 (1990年)	67,125円 (2022年)
銀行金利	普通	2.08% (1990年)
	定期 (1年)	6.08% (1990年)
一人当たり名目GDP 世界ランキング	8位 (1990年)	31位 (2022年)
30年間の国税収入の 最高と最低	30.7兆円 (2009年)	約71兆円 (2022年見込み)
デイズニードランド 入場料	4,400円 (1990年)	10,000円 (2022年10月)

出典：国立国会図書館資料に基づき遠坂誠二事務所で作成

【トピックス】 なんと粋な新聞テレビ番組欄！



原爆記念日の地元紙とのことです、赤線部分を縦に読んでみると……

憲法 9 条にノーベル平和賞を！ 今年には選出されませんでしたでしたが活動継続を確認しました

市民団体「憲法 9 条にノーベル平和賞を！実行委員会」は今年 3 月に今年のノーベル平和賞候補に「安保法制違憲訴訟全国ネットワーク」と「9 条改憲 NO！全国市民アクション」の 2 団体をノーベル賞委員会に推薦し、今年の平和賞候補として受理された 305 件の個人、団体に名前を連ねていました。

ロシアのウクライナ侵攻など世界ではなお戦争が止まらず、日本も軍備増強に走っている今こそ憲法 9 条に世界から関心を向けてもらいたいとの趣旨で進めたこの活動は 20,505 筆の署名をノーベル委員会へ提出しながら、期待を込めて選考経過を見守りました。

結果はイランの人権活動家 ナルゲス・モハンマディさんが受賞しました。残念ながら「憲法九条を守る活動」ではなかったですが、女性に対する弾圧と闘い、人権と自由を守るために、悪政と迫害の中、身を挺して頑張っているナルゲスさんに世界の関心が向けられ、取り巻く環境が良くなることを願います。

これを受けて同実行委員会は戦争が世界中からなくなることを願い、それぞれの置かれているところで出来ることをやってみようとの立場で来年も引き続き「憲法 9 条を守る活動」にノーベル平和賞を願い活動は続けるとしています。

来年こそぜひ実現したいものです。 **新聞記事は 2014 年当時の朝日新聞です。**



野外ステージで署名への協力を呼びかける鷹巣さん＝19日、東京・代々木公園、井手さゆり撮影

「9 条にノーベル平和賞を」 実行委、推薦受理を報告

戦争放棄を定めた憲法 9 条を、ノーベル平和賞に推薦した「憲法 9 条にノーベル平和賞を」実行委員会が 19 日、東京・代々木公園であったイベントで、推薦が受理されたことを報告した。ノルウェーのノーベル委員会から 9 日、「候補に登録された」とのメールが届いたという。

環境を考えるイベント「アースデイ」に、運動を呼びかけたメンバーらが参加。神奈川県座間市の鷹巣直美さん(37)は「9 条を世界に広めるため、実行委員は受賞まで活動続ける」と話した。その後の記者会見では「受賞した際は誰に式に出席してほしいか」との質問を受け、「日本代表として(安倍晋三)首相に喜んで行ってみよう」と答えた。

鷹巣さんは主婦として 2 人の子を育てながら、難民救済の活動にも協力してきた。「戦争で、子どもたちに悲惨な思いをさせたくないのは世界中で同じ」と、昨年 5 月、インターネット上で、9 条を平和賞に推薦する署名活動を始めた。

ノーベル賞受賞者は人物が団体に限られている。だから受賞者は 9 条ではなく、9 条を保持し、約 70 年戦争をしていない日本国民とした。鷹巣さんは「たくさんの方が『もう二度と戦争をしちゃいけない』と語り継いでくれたことで、国民みんなが受賞できると思った」と胸の内を語った。(山元一郎)

不戦の憲法 9 条を守り活かす活動に
ノーベル平和賞を！！



核施設と軍事施設が密集する下北半島をルポライター鎌田慧さん(弘前市出身)が下北半島の歴史と今を語り歩く

映像記録 DVD
絶賛発売中！

鎌田慧さんと歩く下北半島



- | | | | |
|--------------|------------------|--------------|--|
| 1 米軍三沢基地 | 5 六ヶ所村 泊漁港 | 9 むつ市 中間貯蔵施設 | 13 あさこはうす |
| 2 三沢対地射爆撃場 | 6 六ヶ所村 日本原燃再処理工場 | 10 東通原発 | 14 釜臥山 ガメラレーダー
樺山航空基地跡
海上自衛隊 大湊地方隊 |
| 3 六ヶ所村 千歳平 | 7 六ヶ所村 むつ小川原港 | 11 東通村 役場 | 15 幻の大間鉄道 |
| 4 新納屋 泉田稲荷神社 | 8 むつ市 関根浜港 | 12 大間原発 | |

頒価 1,000 円/収録時間 2:30

購入希望者は栗橋までご連絡ください

【編集後記】先月から今月にかけては市議会議員選挙で超多忙な日々でした。おかげさまで杉浦氏は上位当選を果たし、いよいよ 2 期目の活動に入りました。初めての会計責任者という任務も本日(10/12)無事に作業を終えることができました。また、ご承知の通り山口県上関町の中国電力による使用済み核燃料中間貯蔵施設建設問題が大きく動き出しました。町長の判断で調査受け入れとなりました。このことから上関原発に反対しているグ

ループや現地新聞社から問い合わせや照会が数多くあり、素人反対派の自分には適格な対応が難しく難儀しました。10 日には地元県議や市町村議の方を交えた ZOOM 会議で 1 時間半にわたる講師と質疑でかなり疲れました。それでも今まではこの問題が当市だけだったのが、幸か不幸か一緒に考える仲間ができたことは心強い限りです。また、来月には本計画に懐疑的な各級議員さんたちが当地を訪れる予定があるとのことでした。(栗)

東通村・尻労

東通村北東部、桑畑山の太平洋側には、海岸段丘面に形成された「尻労」という名前の地区がある。

1889（明治 22）年の町村制施行で同村が発足する前は、尻労村として独立していた集落だ。

歴史や地名などに詳しい元小学校長の三浦順一郎さん＝むつ市＝によると、尻労はもともと、「志利労（シツカリ）」と表記されていた。

地名の由来はアイヌ語で、「シリ」は山、「ツカリ」は手前の意味。“山の手前”にある土地柄から漢字が当てはめられ、アイヌ語独特の発音法で「シツカリ」と呼ばれるようになったという。

青森県内には、アイヌ語が由来とされる地名は多いが、中には断定できない地区も。ただ、尻労は、北海道長万部町にある地区で、尻労同様に山の麓で南北に長い砂浜が続く「静狩」（シズカリ）と、地形や呼び方が酷似する。

三浦さんは、「尻労はアイヌ語が由来と断言できる、かつてはアイヌ民族も住んでいたのだろう」と話す。

東通村・白糠

東通村の南端、六ヶ所村との境には「白糠」という地名の集落がある。古くから漁業で栄え、近年は、東通原発の立地により国のエネルギー供給基地としても繁栄。東通村内で最も世帯数と人口が多い地区だ。

村史などによると、白糠は 1889（明治 22）年の町村制施行まで、一つの村として独立していた。地名の由来は諸説あるが、アイヌ語から名付けられているという説が最有力。

「シラル」は岩や磯を、「カ」は上をそれぞれ意味しており、干潮時には平磯が現れる海が地区の東側に広がる土地柄から「シラヌカ」と呼ばれるようになった。

北海道にも同集落と同字同音の町があり、地形的にも類似。こうした状況からもアイヌ語由来が有力という。

白糠地区には、船に加えて車で通行する際にも目印となる白糠灯台（物見崎灯台）も立っており、同地区は太平洋側での“下北の入り口”のような位置付け。国重要無形民俗文化財の能舞も伝承され、文化の面でも歴史が深く刻まれている。

下北の民話から

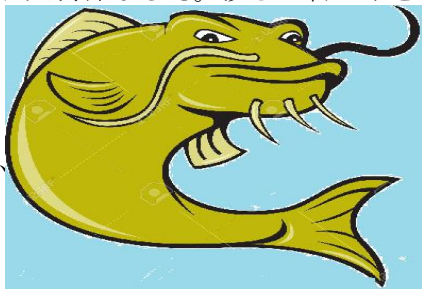
◇大畑川の大ナマズ◇

むかし、大畑川に小さなクジラ位もあるでっけえナマズがいた。動きまわると川の水がウワーッと盛り上がって家を水浸しにする。海へ魚を食べに行ったナマズが、また川へ帰ってくる時も、津波のようにドバァーッと海の水が溢れ、村の家々を水浸しにしてしまう。

村人たちは困って、ナマズ退治を企てたが、その時の凄まじいナマズの暴れようには、手のつけようもない。そこで村人は、村の春日神社にナマズ退治をお願いした。すると、「我は春日大明神なるぞ。汝らの苦しみを救うであろう。ただ、我に米の飯を供えよ」と声があった。村人らは家に帰り、飯を炊き、神前に供えた。

その時、海の方で物凄い音がした。村人らが出てみると、海の中に腰まで入って何かを押さえている、小山のように大きな逞しい男がいた。「神様だ！」村人らは手を合わせた。

「我に握り飯を与えよ」の大男の声に、村人らは供えていた各自の飯を集めて、大きな握り飯を作り、その大男へ向って放った。と、大男は右手でパッと受け取ると、またたく間に食べ、今度は両手で海の中から船よりも大きなナマズを空中へ差し上げると、「汝に天罰を与えるであろう」と、川向うの岩山をめがけナマズを投げつけた。天地を揺るがす大きな音に、村人は気を失ってしまった。村人らが気がついた時、大男の姿もナマズの姿も消えていた。この時から大畑川に大ナマズはいなくなった。春日神社にお握りを盛りあげて上げるしきたりは、この時からじまった。どっとはらえ

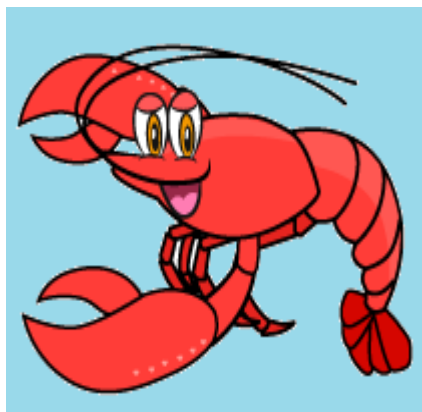


◇エビの腰曲がり◇

むかし、川内のある沼にナマズの王様が住んでいたんだって。その王様が毎晩、なんだ知らないが大きなものの中で、自分がワヤワヤもがいている夢を見るもんだから、家来のエビにそのことを話したら、「そんならカニの占い師に、占ってもらいあんしょ」と言ってカニの占い師を連れてきたんだと。

カニの占い師が、「インギン ゴーリキ ピシャピシヤ……」って唱えていたら、「王様、分かりあんした。これはどうもよくねえ夢だ。その大きな物っちゅうのは網のことで、王様が近いうちに漁師の網で捕まえられるということだ」と言ったもので、カンカンに怒った王様が「なんて縁起の悪いこと言う奴だ！」って、カニを捕まえ、そばの岩にバシッとぶっつけたら、カニはピチャンって、今のように甲羅が平らになってしまったとき。

家来のエビがそれを見て「カニの占い師を連れてきたのはオラだして、オラも王様に怒られればまいねして」と、わらわらと逃げて、そばの高い崖から下へピョンと飛び降りたら、下の大岩に腰をビシンとぶっつけて、それで今のようにエビの腰あ、グニャと曲がってしまったじ話っこだ。どっとはらえ



【文：北彰介氏】

読売新聞青森版に1997年から2年間にわたって掲載された「青森の民話100話」より転載したものです。